

公益社団法人日本語教育学会 文部科学省委託

「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」2018

モデルプログラム⑩日本語に関する内容に関する資料

## 日本語の特徴

仲本康一郎（山梨大学）・中川佑治（福島大学）

### 第1部 音声編

◎ 日本語学の三つの領域

- A. 日本語の音声 日本語の音声的な特徴を考察する分野
- B. 日本語の文法 日本語の文法的な特徴を考察する分野
- C. 日本語の語彙 日本語の語彙や意味を考察する分野

→ 文字・表記 日本語の文字・表記の特徴を考える分野

1. 日本語の音声

1. 1. 日本語の五十音——母音と子音

- A. ( ) 声流を阻害しないで発声する音声  
舌の位置と口の開閉によって区別される

母音三角形 {あ} → {い、う} → {え、お} → …

- B. ( ) 声流を阻害して発生する音声<sup>1</sup>

調音点（場所）と調音法（方法）によって区別される

→ パパとママはなぜ言いやすい？

調音法のバリエーション 清音（ば）、濁音（ば）、鼻音（ま）

1. 2. 開音節言語と閉音節言語

- A. 閉音節言語 音節が母音でも子音でも終わる言語 例. 英語

- B. 開音節言語 音節がかならず母音で終わる言語 例. 日本語

日本語は開音節言語で、音節の長さがすべて同じになる

→ 日本語は「音節」ではなく、「拍」という単位で構成される

例. White house（2音節）とホワイトハウス（7拍）

長音（「ちず」「ちーず」）、促音（「きて」「きって」）、撥音（「こぶ」「こんぶ」）

<sup>1</sup> 長音や促音、撥音などの**特殊音**は、語を意味を区別するだけでなく、語や文を**強調**するときにも用いられる。

例. 「髪は長ーい友達」「おーい、お茶！」「えー、がっかりー」 → 「すごい」

日本語のリズム ○○○○○○○○ → 同拍リズム

英語のリズム ○○ ○○○ ○ ○○○ → 強弱リズム

問. 「こんにちは」と「こんにちは」

## 2. 韻律的情報

### 2. 1. アクセント

語が恣意的に持っている相対的な高低や強弱の配置

A. ( ) アクセント 音の強弱 (ストレス) に基づく区別 例. 英語

B. ( ) アクセント 音の高低 (ピッチ) に基づく区別 例. 日本語

→ 「はし (箸)」と「はし (橋)」と「はし (端)」

#### ◎ アクセントの二つの機能

A. 意味機能 (異なりりの知覚) 例. 「雨」「飴」「着る」「切る」

B. 文法機能 (まとまりの知覚) 例. 「山梨大学」「山梨太郎」

### 2. 2. イントネーション

話者の発話意図に関わる文末や句末の高低の変化

#### ◎ 平坦調、上昇調、下降調

話し手の発話意図や感情的態度などを表わす

例. 「そうですか」を抑揚を変えて言ってみよう

そうですか→ (確認)、そうですか↑ (疑問)、そうですか↓ (残念)

#### ◎ 超分節音声 イントネーションは語の音声にかぶさる<sup>2</sup>

A. ( ) 調 しーらない、かーえろ、でーきた

B. ( ) 調 こわいぞー、しらないよー、しかられるよー

C. ( ) 調 へんな人、困ったものだ、はい、はい

### 2. 3. プロミネンス

文の中のなかで重要な語や句に置かれる強調

→ 文法構造や情報構造を表わす

例. 座ってみてください

ここで止めてください

バカじゃない!?

それはただの水だった

昨日借りた本を返した

<sup>2</sup> 『ささやく恋人、りきむりポーター——口の中の文化』(定延利之、岩波書店)

## 第2部 文法編

### 1. 日本語の構造文型

#### 1. 1. 言語の種類

語と語の間の文法関係を標示する方法に基づく分類

→ **文法関係** 文の中で語が果たす役割

例. 主語、述語、目的語、修飾語、被修飾語

A. **孤立語** 語順によって標示する 例. 英語、中国語、ベトナム語

B. **屈折語** 語形によって標示する 例. ドイツ語、フランス語、アラビア語

C. **膠着語** 接辞によって標示する 例. 日本語、韓国語、トルコ語

→ **格助詞** 動詞と名詞の意味関係を表わす文法標識<sup>3</sup>

例. **主格** (が)、**対格** (を)、**与格** (に)、**道具格** (で)、**共同格** (と)

「あの**子**が **ボク**を **ぶ**ったよ」の意味は？ → **語順**は重要ではない！

#### 1. 2. 日本語の基本文型

日本語の骨格を形成する**格**に基づく文型

A. [が] 例. 太郎君**が** 歩いた、次郎君**が** 転んだ、三郎君**が** 笑った

B. [が、を] 例. 太郎君**が** おもちゃ**を** 買った、次郎君**が** おもちゃ**を** こわした

C. [が、に] 例. 太郎君**が** 学校**に** 着いた、太郎君**が** 先生**に** 会った

D. [が、を、に] 例. 太郎君**が** 庭**に** 花**を** 植えた、次郎君**が** 母**に** 花**を** 贈った

例. 「太郎君**が**、次郎君**に**、おもちゃ**を**、…」 → どんな動詞が予想されるか？

### 2. 表現文型

動作の方向性、事態の展開、発話者の心的態度を表わす文末形式

例. 食べ [させ] [られ] [てい] [た] [よう] [です] [よ]

(使役) (受身) (進行) (過去) (推量) (丁寧) (主張)

→ **膠着語** 従属的な要素＝接辞を付加することで文法を標示する

#### 2. 1. ヴォイス——受身と使役

視点の違いに基づく動作の方向性を表わす文法指標

(1) 能動文と受動文はどのように対応するか？

a. 太郎君**が** 次郎君**を** なぐったよ : ( ) 文

b. 次郎君**が** 太郎君**に** なぐられたよ : ( ) 文

<sup>3</sup> 日本語の情報構造 「が」(主格)と「は」(主題)は同じではない！

例. 太郎 {が、は} 試験に落ちたとき悲しかった。

→ どのように意味が変わるだろうか？

→ 英語の受動文と比べてみよう！

(2) 使役文のさまざまな意味

- a. 上司は部下を [働く → 働かせた] : 強制使役
- b. 上司は部下を [休む → 休ませた] : 許可使役
- c. 上司は部下を [驚く → 驚かせた] : 誘発使役

→ 他動詞「服を着せた」(直接) と 使役文「服を着させた」(間接)

2. 2. アスペクト——開始・進行・完了

事態の時間的な「展開」を表わす文法標識

→ 三つの局面がある ル形、テイル形、タ形

- (3) a. ごはんを食べる (ところです) : ( ) 相
- b. ごはんを食べている (ところです) : ( ) 相
- c. ごはんを食べた (ところです) : ( ) 相

問. それぞれどんな場面か絵で描いてみよう

→ 「橋を渡る」「橋を渡っている」「橋を渡った」(ところ)

2. 3. モダリティ——心的態度

日本語の文は大きく客観的な内容を表わす命題と、命題に対する発話者の主観的な態度を表わすモダリティからなる

日本語の文 = 命題 (proposition) + モダリティ (modality)

A. 命題 文が伝える客観的な内容を表わす

B. モダリティ 命題に対する発話者の主観的な態度を表わす

例. (ねえ、どうも) 太郎君は風邪を引いた

{らしい、ようだ、そうだ、...} {です} {よ、ね、ぞ}

対事的モダリティ

対人的モダリティ